

J.M.横型遠心鑄造器 (CM-30)

【警告】

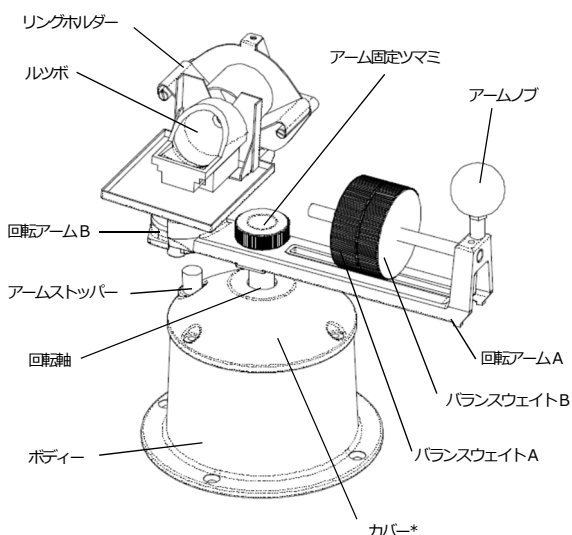
1. 回転アームのバネを巻きセット状態にする際は、アームストッパーが不意に外れることのないよう、はめ込みの状態をよく確認すること。回転アームが不意に回転を始めると、手指や身体が触れて、やけど・けがなど事故の原因となる。
2. アームノブから手を放したら、速やかに本器から手指や身体を離すこと。回転中のアームに触れると、やけど・けがなど事故の原因となる。

【禁忌・禁止】

1. アーム固定ソマミを固定せずに回転アームを回さないこと。回転アームが外れ、事故や故障の原因となる。
2. 回転アームが回っている間は、アーム部等に触れないこと。事故の原因となる。
3. 仮固定には、滑りやすいもの・鋭利な物（金属片など）を使用しないこと。不意に外れたり、万一アームが回転した時に飛び出すなど、事故や故障の原因となる。

【形状・構造及び原理等】

1. 形状・構造等 *



2. 動作原理 *

定荷重うず巻きばねを巻き上げ解放することでアームを回転させ、遠心力でアームの鑄造リツボ内の融解金属を埋没材に入れ、キャストを行う。*

3. 本体寸法及び質量

- (1) 寸法 : 390(W)×390(D)×285(H)mm
- (2) 質量 * : 約6.2 kg

【使用目的又は効果】 *

本装置は、外部防熱装置を用いて合金を溶解し、鑄造する装置である。

【使用方法等】 *

1. 使用環境条件 *

下記の条件にて使用すること。*

- (1) 周囲温度 : 10 ~ 40℃ *
- (2) 相対湿度 : 30 ~ 75%RH (結露しないこと) *
- (3) 気圧 : 700 ~ 1,060hPa *

2. 取り付け・設置 (組立て・据え付け)

- (1) 取扱説明書に準ずる事。*
- (2) 機器の取り付け・設置は専門の担当者 (当社又は当社指定の業者) が行う。

3. 使用方法 *

- (1) 鑄造を開始する前に回転アームの準備を行う。
- (2) 鑄造用リツボとリングホルダーを回転アームBにセットする。
- (3) 回転アームの重量バランスを設定する。
- (4) 回転アームBの仮固定を解除し、回転アームを固定する。
- (5) 回転アームのばねを巻き、鑄造開始までのセット状態とする。
- (6) 鑄造用リツボに鑄造金属を入れ、キャストリングをリングホルダーにセットする。
- (7) 鑄造用リツボ内の金属を融解し、回転アームを回して遠心鑄造を行う。

4. 使用方法等に関連する使用上の注意 *

- (1) 回転アームの重量バランスは、毎回使用毎に設定すること。バランスが適正でないと、大きく振動し事故や故障の原因となる。*
- (2) 回転アームのばねを巻く前に、必ず回転アームBの仮固定を解除すること。仮固定の木片が飛び出し、事故や故障の原因となる。*
- (3) 回転アームのばねを巻く際は、5回転を超えないこと。ばねが変形し事故や故障の原因となる。*

- (4) 回転アームのばねを巻き、セット状態にしたまま長時間放置しないこと。不意に回転する場合があり、事故の原因となる。*
- (5) 鋳造用ルツボ・キャスティングリング・リングホルダーに、ひび・割れや歪み・変形などの異常がある場合は使用しないこと。回転中に各部品・各部品の破片・融解金属などが飛び出し、事故や故障の原因となる。*
- (6) 鋳造用ルツボは、必ず湯口がリングホルダー側を向くようセットすること。セットを誤ると、鋳造中に融解金属が飛び出すなど事故の原因となる。*
- (7) 鋳造用ルツボとキャスティングリングは完全に密着するようセットすること。密着していないと、鋳造中に融解金属が飛び出すなど事故の原因となる。*
- (8) 鋳造用ルツボに鋳造金属を入れる際は、適量を超えないこと。鋳造中にあふれて飛散し、やけどの原因となる。*
- (9) ブローパイプなど周辺機器は使用后、本器から離れた場所に置くこと。回転中のアームに触れると、事故や故障の原因となる。*

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意 *

〈設置〉*

- (1) 本器のボディーは、安定した安全な鋳造作業台の上にしかりと固定すること。本器の転倒や融解金属の飛散を招き、事故や故障の原因となる。*
- (2) 本器設置の周辺には空間（約 420 mm四方以上）をとること。また、本器は安全な場所（台の周囲に専用のガードがある等）に設置すること。回転アームが触れて、事故や故障の原因となる。*

〈お手入れ〉*

- (1) ベンジン、シンナーなどの溶剤で本器表面を拭かないこと。塗装面やゴム・樹脂部分などの劣化の原因となる。*
- (2) 本器表面や内部に、水分や洗剤が残らないようにすること。錆などにより、各部の劣化や故障の原因となる。*

〈その他〉*

- (1) 固定軸内部の金属球（2個）は必ずセットすること。金属球をセットしなかったりセットが不完全だと、軸の回転に支障をきたし、故障の原因となる。
- (2) 金属球の表面や、固定軸内部の溝周辺（金属球が触れる場所）にグリスが付着したら、必ず乾いた布などでよく拭き取ること。金属球の働きが低下し、軸の回転に支障をきたし故障の原因となる。

【保管方法及び有効期間等】 *

1. 保管条件 *

下記の条件にて保管すること。*

- (1) 周囲温度 : -10 ~ 70℃ *
- (2) 相対湿度 : 10 ~ 85%RH（結露しないこと）*
- (3) 気 圧 : 700 ~ 1,060hPa *

2. 耐用期間 *

10 年間。（自己認証（当社データ）による）

※正規の使用方法、保守点検、消耗品などの交換を行った場合に限る。*

【保守・点検に係る事項】

1. 医療機器の使用、保守の管理責任は、使用者（医療機関、病院、診療所、技工所）側にある。
2. 保守点検は使用者側で行うのが原則であるが、実施されない場合には、医療機器修理業などの有資格者に外部委託することが認められている。
3. 日常点検及び定期保守点検は以下の項目に従って行う。*

〔使用者による保守点検事項（日常点検）〕*

下記項目の点検を実施し、異常がある場合は交換、もしくは修理依頼を行うこと。*

点検内容	点検頻度	点検方法・診断
アーム固定ツマミを締め、回転アームが十分に固定されているか。	毎回 (使用前)	正しく固定する。
回転アームのバランスが取れているか。	毎回 (使用前)	バランスを設定する。
鋳造用ルツボにひび・割れなどがないか。	毎回 (使用前)	正常な鋳造用ルツボを使用する。
キャスティングリング・リングホルダーに歪み・変形などがないか。	毎回 (使用前)	正常なキャスティングリング・リングホルダーを使用する。
ボディーの固定にゆるみ・ガタつきなどがないか。	毎回 (使用前)	正しく固定する。
回転軸がカバーに接触し、異音が発生していないか。	毎回 (使用前)	カバー固定ネジを緩め、カバーの位置を調整する。

詳細は取扱説明書を参照すること。*

〔業者による保守点検事項（定期保守点検）〕*

なし

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】 *

株式会社モリタ東京製作所

電話番号 048-723-2621

お客様専用フリーダイヤル 0120-131-557

受付対応時間 9:00~12:00、13:00~17:00**

(土・日・祝日を除く、弊社営業時間)**